

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 小さな国際交流の会

1 事業の趣旨・目的

近年、日本に在住する外国人はどんどん増加している。彼らが地域社会の中で孤立することなく生活してゆくために必要としているのは、日本での生活に有用な日本語であって、単なる日本語学習ではない。このことを日本語ボランティアはしっかり認識しなくてはならないし、日本語を教えるためのスキルアップも必要となる。

そこでこの実践・研修講座では、1)日本語を支援することの意義について考え、ボランティア精神の再確認をすること、2)日本語ボランティアのコミュニケーション能力を高めること、3)滑舌訓練によりボランティア自身の発音を明瞭にするとともに、発音矯正法を習得すること、4)教材作成とその活用法学ぶこと等々を、目的とする。

また、福岡市とその近郊で日本語ボランティアに携わっている人たちの連携と、日本語教室全体のスキルアップをも目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6/3 14:00 ～17:00	福岡県国際 交流センター こくさいひろば 交流室	野口照代 太和田百合子 小川操 岸田孝彦 村上和子 尾林茂	講座の概要説明	講座の方針の確認と共有 講座内容の企画
6/10 14:00 ～17:00	福岡県国際 交流センター こくさいひろば 交流室	野口照代 太和田百合子 小川操 岸田孝彦 村上和子 尾林茂	講座内容及び担当講師等について	講座内容をより効果的なものにするための討論 日本語ボランティアの存在意義について話し合う 講師への要望の検討 募集方法の協議

6/17 14:00 ～17:00	福岡県国際 交流センター こくさいひろば 交流室	野口照代 太和田百合子 小川操 岸田孝彦 村上和子 尾林茂	講座運営について 講座内容の検討	講義と討論、実習時間の 使い方と割り振り コーディネーターのもとで 充実した内容にする 外国人と接するボランテ ィアの心構えと日本語ス タッフに必要な条件につ いて話し合う
7/1 14:00 ～17:00	福岡県国際 交流センター こくさいひろば 交流室	野口照代 太和田百合子 小川操 岸田孝彦 村上和子 尾林茂	講座運営について 修了証書について	受講申し込み状況 グループ分けの方法 7回以上出席した人に修 了証書を渡す
10/7 14:00 ～17:00	福岡県国際 交流センター こくさいひろば 交流室	野口照代 太和田百合子 小川操 岸田孝彦 村上和子 尾林茂	講座全体に対する 反省会	講座開催時期、回数、連 続講座にかんして 参加者のニーズに応えら れたか 学んだことを今後どう生 かしてゆくか

上記以外に、各講座終了後1時間程度その日の講座の振り返りと、次回の講座に向けての検討をした

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

日本語教室ボランティア・実践研修講座

(2) 研修の目標

日本語ボランティアが「生活者としての外国人」への日本語支援とはどのようなものかを認識し、必要とされている日本語を教えるためのスキルアップと日本語ボランティアたちの連携を図る。

(3) 受講者の総数 42 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(4) 開催時間数(回数) 45 時間 (9 回)

(5) 参加対象者の要件

1. 日本語支援ボランティア経験年数原則2年以上
2. 連続参加できる人優先

(6) 受講者の募集方法

ポスターの掲示 福岡市人権啓発センター(リバレイン 10F)

(財)福岡県国際交流センター(こくさいひろば)。

福岡県 NPO・ボランティアセンター

福岡市 NPO・ボランティアセンター、

福岡市 7 区の市民センター

福岡市 7 区の区役所 地域振興課

福岡学生交流会館

ふくおか市政だより (6/15 号) に掲載

メルマガ <rainbow@rainbowfia.or.jp> 福岡国際交流協会、

「@コンテ」<nvc@pref.fukuoka.lg.jp> 福岡県 NPO・ボランティアセンター、

あすみん <asumin@fnvc.jp> 福岡市 NPO・ボランティアセンター、

ホームページと **メルマガ** <<http://www.kokusaihiroba.or.jp>> 福岡県国際交流センター

ホームページイベント情報 日本語のリソースショップ(有限)大谷書店

メールでの告知(北九州市内の日本語教室) (財)北九州国際交流協会

ポスターの掲示とチラシの配布等 7 区の市民センター、7 区の区役所担当部署、

日本語クスマップ掲載団体等に郵送、告知

後援の福岡市、(財)福岡国際交流協会、日本国際連合協会福岡県本部

協力の(財)福岡県国際交流センター、福岡日本語支援ネットワーク

(7) 研修会場

講義・実習とも

福岡市人権啓発センター 研修室

福岡県国際交流センター こくさいひろば交流室

(8) 使用した教材・リソース

『リソース型生活日本語』 公益社団法人国際日本語普及会編

『音声を教える』国際交流基金日本語教授法シリーズ2 ひつじ書房

『初級文型でできるにほんご発音アクティビティ』 アスク出版

『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための発音練習帳』 ひつじ書房

『にほんご1・2・3』 アルク

『みんなの日本語』 スリーエーネットワーク

『日本語コミュニケーションゲーム80』 The Japan Times

『初級日本語 ドリルとしてのゲーム教材』 アルク

『Shadowing 日本語を話そう 初～中級』 くろしお出版

『にほんごこれだけ!』 ココ出版

『中上級のにほんご』（月刊誌） 創作集団 にほんご

『にほんごボランティア手帖』 凡人社

『日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文化』 アスク出版

『創造的授業の発想と着眼点』 アルク

『優しい日本語—英語に出来ない「おかげさま」のころ』 太陽出版

『ナイフとフォークで冷や奴』 太陽出版

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月8日 10:00～ 16:00	地域日本語支援ボランティア活動の基本姿勢	(社)国際日本語普及協会 理事長 西尾 珪子	34名
7月15日 10:00～ 16:00	滑舌訓練、発話を促す、伝える力を磨く	フリーアナウンサー 戸川 悦子	35名
7月22日 10:00～ 16:00	研修生の日本語習得 会話修得の模擬授業	NPO法人日本語サポート あさ 代表 小川 ひろみ	35名

7月29日 10:00～ 16:00	発音の矯正 日本語 を聞き取る能力	早稲田大学日本語教育 研究センター 非常勤講師 中川 千恵子	37名
8月5日 10:00～ 16:00	外国語としての日本 語の教え方 学習者 が困る文型は何	「にほんご 123」著者 草刈 めぐみ	37名
8月19日 10:00～ 16:00	教材の作成と活用法	(社)国際日本語普及協 会所属教師 津田 訓江	37名
8月26日 10:00～ 16:00	高感度アップの話し 方と聞き方 フリートークと講座内 容の振り返り	フリーアナウンサー 上野 敏子	36名
9月2日 10:00～ 16:00	“対話中心の活動” の勧め～多文化共 生社会をめざして～	東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子	36名
9月9日 10:00～ 16:00	コミュニケーション能 力 及び 日常会話 修得の実践	常葉学園大学外国部学 部教授 清 ルミ	35名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・主催者側のご尽力に大いに感謝いたします。本当に貴重な体験をさせていただき、実に意義深い夏を過ごすことが出来ました。どの講座も興味深かったのですが、西尾先生、清先生の言葉が深く心に残りました。
- ・思いがけず大変質の高い、しかも無料の講座に参加させていただきまして、心からお礼申し上げます。講義の内容も素晴らしかったのですが、それ以上に先生方や参加者の方たちのお人柄の良さが何よりも印象に残っております。
- ・この講座で自分を振り返り、考えることができ、学ぶことへの刺激が出てきました。自分を高めることを心がけます。
- ・コミュニケーションは言葉だけではない部分がたくさんあるということがよく分かりました。相手の立場に立ってコミュニケーションを取ることの難しさを改めて考えさせられました。ボランティアを通じて、相手の立場に立って寄り添っていったらと思います。
- ・具体的で分かり易い講義が盛りだくさんで、どの講座も疲れる暇がないほど充実し

た内容でした。相手の立場に立つこと、多角的、客観的に自分を振り返る事を忘れず、ボランティアに取り組んでいきたいと思います。

- ・ちゃんと伝わる話し方、ちゃんと受けとる聞き方の一番大事なチェックポイントは「相手の視点に立つ」こと。どの先生方も口をそろえておっしゃったことでした。心に深くとめます。自分のコミュニケーション能力をしっかりと振りかえろうと思います。また、「ことば」を教えることに精いっぱい、非言語の部分の大きさを知って、これからの心構えとしたいです。
- ・今までの私たちの日本語教室を根底から考え直す、大変貴重な内容でした。「対話型」更に学んで取り組みたいと思います。**文型、勉強型の授業から、地域型の対話型ボランティアの考え方というのは実に面白い革新的な考え方で、コチコチの“教えるのが大好き人間”には大きな刺激でした。先生方のお話には説得力があり、実に面白い講座でした。**
- ・話したい、伝えたい気持ちと、あなたのことを聞きたい気持ちが大切なことが分かったことが、大きな収穫です。心を開いて話す。肩の力を抜いて話す。受け入れる基本ですね
- ・今までは手元にあるテキストをどのように教えようと、そればかりに気を取られがちだった自分に気付きました。先生方が規制のテキストをご自分の使いやすいように、また学習者が必要としていることを分かりやすい形に独自に再分類して使っておられるのを見て、大変参考になりました。学習者の目線で考えてみるものが、本当に大切なのですね。
- ・学習者（外国人）の日本語は、本来その人の人格を表すものではない。どういう日本語を教えられたかによるといってお話が、自分自身注意しなければいけないという意味で印象に残りました。

② 実施主体からの研修内容結果評価

参加者数は18ボランティア団体から42人、全9回の講座だったが7回以上の出席者34人で、猛暑の中、初めからの欠席予定者は別として、全員出席と言っていいほど熱心に先生の講義に耳を傾け、実習では活発な発表と意見交換がなされた。

これまでの文型積み上げの内容ではなく、9人の先生方すべてが、実践研修を通して「生活者としての外国人」のコミュニケーション能力を高めるノウハウ、教材、考え方を示された。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

福岡市内とその近郊には日本語ボランティア教室が40を優に超える。今回の講座参加への働き掛けと参加者による反応で、日本語支援とは何かが問い直されることは確かだ。

今後は教室内に留まらず国際関係団体へも積極的に参加や協働を呼び掛け、在住外国人への理解と支援を広げていく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回の講座の実施で、県や市の後援、財団やNPOセンターの協力を得る事が出来た。講座会場の県国際交流センターの「こくさいひろば」と福岡市人権啓発センターとは協働の形で支援を得られた。当会独自の団結や力を蓄え、他団体との連携を強める。

② 研修後の人材活用

文型の積み上げで教える事が日本語教育だと思い込み、他のボランティアにもそれを求める傾向があった。「生活者としての外国人」にとって必要なのは日本語教育ではなく、生活面や自分を表現するのに必要な会話能力である。9回の連続講座で何がボランティアとして必要な事か、各自しっかりと理解できたはずである。今後は講座参加者各自が、学んだことを自分の足元から実践し、文型中心と日本語教育から脱却できるよう働きかけることが、研修後の人材活用だと考える。

(12) 今後の課題

地方都市福岡は行政に依存する傾向があり、互いに手を取りよりよく社会に働きかけようとする事より、個々の団体内の活動だけに終わる傾向がある。

福岡では1995年に福岡日本語ボランティアネットワーク(FNVN)ができた。その後、約5年の活動の後、一部の行政サイド担当者の意向で、日本語支援ネットワークに移行した経緯がある。その当時から現在に至るまで、どうも団体間の連携が希薄でネットワークが育ちにくい。とりわけ市民側の自立と連携、社会に影響を与える熱意を持続させることが課題である。